

公益社団法人日本ビリヤード協会平成 25 年度事業報告(計画書対比)

1 震災募金に関して

期限を区切らず続けます。

3 年目に入り、平成 25 年度には 133,731 円の寄付がありました。ランニングコストがかかりませんので当分続けます。

2 組織

25 年度中には NBA 本部が日本体協に加盟する予定です。

資格認定、指導員制度、審判員制度の明文化が必要となります。システムが稼働するまでに数年を要しますが、制度だけは明文化されている必要があります。

25 年度中は公益社団法人移行への手続きを優先したため、体協加盟は進捗しませんでした。26 年度中には手続き完了させたいとおもいます。制度の明文化も来期もちこしですが、複数年計画となります。単年度で完成する事業ではありません。

3 普及事業

協会のアピールとしては適切な運動量と、頭を使うことによる認知症防止、コミュニケーション等があります。現在増えている高級高齢者施設では、入居者のニーズに応える姿勢をとっており、その中にビリヤードも入っているようでいくつかの問い合わせもありました。講師派遣依頼がくればできるだけ協力をお願いします。公共の高齢者施設には全撞工の協力でテーブル貸与・贈呈を続けてゆきます。

若年層への普及も重要です。児童館などからオファーが来れば極力受けるようにして下さい。いずれも、一度二度はボランティアでも、度重なるようでしたら本部にご相談ください。多少の補助はできますが、基本は支部としてもやらなければならない事業です。協会所有のミニテーブルは、引っ越し便で送ることができますので、各地のイベントで使うことは可能です。現在東京都の新宿区では校長会（区立学校の集合体）に諮るべく準備中です。

昨年復興支援連合会よりミニテーブルの寄贈があり、積極的に活動を展開する予定です。

競技会ではありますが、学生層への普及のため、学校対抗選手権も継続します。かなりの事業支出を伴いますが絶対に続けてゆかなければならない大会といえます。11 回大会は震災のため中止、10 回大会と 12 回大会は定員割れのため 20 校で開催しましたが、24 年度開催の 13 回大会は再び 24 校の参加があり、復活の兆しを見せています。

普及・指導事業は、ビリヤード協会が永久に続けてゆかなければならない事業です。

本年度は協力金で3つの大きな普及イベントに参加しました。なかでも10月14日に東京で開催された「体育の日」中央記念行事には、協力金で交通費と宿泊費を補助し、地方から3名の参加者(イベント参加ではなくビリヤードのスタッフとして)がありました。このようなイベントは、空いた時間にビリヤード以外の種目を視察できるということで、「普及のためビリヤード以外の種目も知っておく必要がある、他団体のイベント運営を勉強できる」というメリットがあります。レク協や体協の指導者資格にもその競技特有の指導員と、全般をこなすスポーツリーダーという資格があります。様々な種目を体験することは普及にあたり必ずプラスとなります。

4 選手強化

本年度は6月開催のアジアインドア&マーシャルアーツゲームズ(韓国/仁川)に、選手11名、オフィシャル2名、TDI名、帯同審判2名を派遣します。また7月開催のワールドゲームズ(コロンビア/カリ)に、選手3名、オフィシャル1名の派遣をします。

このため他の選手強化事業までは手が回らないのが現状です。

アジアインドア&マーシャルアーツゲームズ 6/26～7/6 仁川/韓国

男子スリークッション 梅田竜二(金メダル)、竹島欧(銅メダル)

男子ワンクッション 森陽一郎(銅メダル)、町田正

男子ナインボール 水戸広之、栗林達

女子ナインボール 夕川景子、河原千尋

女子テンボール 河原千尋(銀メダル)、夕川景子

スヌーカー6レッド 松村浩史、栗本高雄

スヌーカーシングル 栗本高雄、長谷修次

スヌーカーチーム 栗本高雄、長谷修次、松村浩史

ワールドゲームズ 7/25～8/14 カリ/コロンビア

男子9ボール 赤狩山幸夫

女子9ボール 梶谷景美

スリークッション 竹島欧

5 ジュニア

ここ数年日本のジュニアクラスは層・レベルと共にかなり充実していましたが、その充実したメンバーが徐々にジュニアを卒業し、世代交代を迎えています。このクラスは常に新メンバーが登場していないといけないのですが、全国的に選手層が薄くなってい

るのが現状です。タレント発掘も協会の重要な仕事であり、また、ジュニアの充実はそのまま普及にもつながります。またジュニア・学生層への普及は体協加盟や地区教育委員会とのつながりが有効な手段であり、組織の発展ともつながりをもってきます。

本年の世界選手権は南ア、中国、カタールが立候補しています。

ポケットは本年は南アフリカで開催されました。

ボーイの部 大塚雄豊 ガールズの部 平口結貴 準優勝

スリークッションはギリシアで開催されました。出場 森雄介

6 国体記念大会

国体は平成 28 年和歌山まで参加が決定しています。本年の記念大会は長崎市の特設会場で開催されます。

長崎国体記念大会・東京国体とも無事終了。27 年度岩手国体記念大会も準備が進んでいます。

7 大会開催・・・トーナメントスケジュールによる。

8 大会派遣・・・例年通り世界選手権に代表を派遣。

9 法人制度の変更について

当初の予定より遅れましたが本年 11 月末日までに公益社団法人に移行する予定です。

11 月申請、3 月答申、平成 26 年 4 月 1 日より公益社団法人としてスタートを切りました。

10 各種委員会

アンチ・ドーピング委員会

実際に検査対象となるトップ選手の属する JPBA と JPDF、そして NBA 本部で構成した委員会で活動しています。今年度は 2 大会で 4 検体の検査を予定しています。それともなう TOTO の助成は申請済みです。

25 年度は予定通り 4 検体での実施となりました。

CS 委員会

実際に回転しているシステムにつき、急激に大きく変更することは不可能ですが、現状は過去最低ラインであり、一新することも視野に入れなければいけない時期に来ているともいえます。

カードメーカー導入、クラス認定の導入と併せて委員会を開催しましたが、結論は出ませんでした。26年度に持越しです。

助成金審査委員会・選手選考委員会

必要に応じ開催します。本年長崎県ビリヤード協会に15万円の助成をする予定です。

本部から15万円の助成で、何とか特設会場での開催に成功しました。長崎では設営業者だけでは時間内に仕上がらないということで、手伝いに大量のスタッフを投入しました。業者の少ない地方ではこのような問題もあります。

協力金委員会

ほぼ正常に回転しています。システム自体は問題ありません。

決算書協力金別表のとおり。正常に回転しています。